

宇都宮市立横川中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「早寝、早起きを心がけている」の肯定割合は85.4%で、県より7.6ポイント上回っている。「家の人と学校でのできごとについて話をしている」の肯定割合は90.2%で、県より7.4ポイント上回っている。「家の人と学習について話をしている」の肯定割合は85.4%で、県より12.3ポイント上回っている。その他の質問内容を含め、家での生活習慣は、非常に良好である。今後も家庭と連携しながら、生活習慣の定着を図っていききたい。

○『勉強していて「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある』の肯定割合は92.7%、「授業を集中して受けている」の肯定割合は97.6%とどちらも9割を超えている。学習に対してやる気をもって取り組んでいる姿がうかがえる。また、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」の肯定割合は80.5%で県より14.7ポイント上回っている。この前向きな気持ちを大切にしながら、今後も意欲的に学習に取り組めるような学習環境、学習形態・学習内容を考えていきたい。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定割合は86.6%で、県より11.0ポイント上回っている。「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の肯定割合は81.7%で県より9.7ポイント上回っている。授業の中で積極的に児童間の話し合いや意見の交流を取り入れることで、さらに学びを深めていきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」の肯定割合は93.9%で、「学校のきまりを守っている」の肯定割合は100.0%であった。決まりを守りつつ、楽しく生活している児童が多いことが分かる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定割合は67.1%で、県より1.6ポイント下回っている。「家で授業の予習をしている」の肯定割合は54.9%で、県より1.9ポイント下回っている。授業の復習やテストでの間違えた問題の勉強についての質問に対する回答についても、県の肯定割合を上回るものの肯定割合は決して高くはない。「家庭学習の記録」を活用し、音読などの予習から復習までの流れややり方についてさらに具体的に継続的に指導していくことで、基礎基本の定着を図っていききたい。

●「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」の肯定割合は78.0%で、県より3.7ポイント下回っている。自分の考えや友達の考えを整理して書いたり、授業の最後に分かったことをまとめたりするなどのノートの書き方について今一度確認し、1時間1時間しっかりと指導することで、ノートの使い方を定着させていきたい。